

令和5年度第1回学校運営協議会・コンプライアンス委員会議事録

令和5年6月1日(水) 9:30~11:00

天竜特別支援学校 視聴覚室

1 出席者

(1) 委員

尾関ゆかり氏、石田雄士氏、出沢茂氏、太田勝久氏、恩田斉氏、山下広矛氏、清水美保氏

(2) 学校関係者

校長、副校長、事務長、小学部主事、中学部主事、高学部主事、訪問主任、教務課長

2 内容

(1) 校長挨拶

- ・本校の学校運営協議会は昨年度から実施し、コミュニティ・スクールという名称になった。地域と協働して子供を育てていこうという目的でこの制度ができた。
- ・みゅうの丘（医療、福祉、教育）の強みや自治会、皆様の力を得てよりよい学校にしていきたい。
- ・特別支援教育の現状として、少子化と言いながらも特別支援教育を受ける児童生徒は年々増えている。本年度、県内の学校は分校も含めて42教場あり、病弱特支は県内1校のみである。富士特別支援学校富士東分校の開校式では、富士東高校の代表生徒が、「僕たちは同じ高校生です。同じ仲間です。共に高校生活を楽しみたいと思います。」といった内容の挨拶があったと聞いて、とても印象に残っている。

(2) 学校運営協議会委員の任命

(3) 自己紹介、会長・副会長の選出

会長…石田氏、副会長…尾関氏 ※承認

(4) 令和5年度学校経営計画、各学部の取組について（校長、各部主事、訪問主任）

・学校経営計画の説明

教育目標、目指す児童生徒像、目標具現化の柱、本年度の取組（ゴシックを中心に説明）

・各学部の取組

小学部…現在15名在籍。全員病院から本校に通っている。人とのかかわりや家族との関係、生活習慣など様々な課題を抱えており、自分と向き合いながら学んでいる。数か月で原籍校に戻っていくため、原籍校と連携しながら、人とのかかわり方や学習の取り組み方を身に付けていく。

中学部…現在 13 名が在籍。ほとんどが不登校を経験している。「自分ではできない。」など自己肯定感が低いと感じている。中には、小1から不登校の生徒もいる。それぞれ、学習空白があるため、グルーピングをしながら少しでも「やった」「できた」という実感を持たせたい。また、自分の気持ちを伝えられない生徒も多い。教師や友達と話をしながら、自立活動などで学んでいる。

高等部…29名在籍しているが、学習空白の生徒が多い。生徒たちは、「学習したい。」という思いがある。小中学校時代に学ぶ内容を補填しながら高等部で学ぶ内容を学習している。昨年度は、7名の卒業生がいた。1名大学進学、1名専門学校進学、3名就職、2名就労移行支援。

訪問教育…慢性疾患の児童生徒が在籍しており、13名が学んでいる。現在は病室の各部屋で学習をしている。実態によって、病院の周辺で外気欲にも取り組んでいる。児童生徒が作った作品などは校内に掲示している。コロナ前は、本校生と合同で学習する時間を設けていた。

3 授業参観

4 意見交換

委員A…最近、感じていることとして、小中学部の児童生徒が原籍校に戻るときに、元の医療が関わっておらず、いつの間にか天竜病院を退院していることが多い。そういう子供は、原籍校で大変だと感じる。日中の生活や経済的支援などについて、在籍期間中に話し合いができると良い。18歳成人に制度が変わってから、相談を受けることが増えた。いつの間にか、スマホの犯罪に加担していたという相談が多い。一緒に考えていきたいと思う。

委員B…少人数で行き届いた教育ができている。子供が明るい。よい環境で学べていると感じた。

委員C…子供の姿を西鹿島駅で見かける。明るく元気よい姿を見かける。先生たちの指導のおかげ。

委員D…個性に応じた指導を確認できた。企業の人間のため、職場では、個別対応はしている。だが、個性を把握できず、退職した事例がある。もし、情報として提供してもらえるとありがたい。情報が宝物。

委員E…久しぶりに校内を回らせてもらった。40年前と6年前の風景で、ここは変わっていない、ここは変わったという点がいろいろある。小中学部の児童生徒は、原籍校のジャージを着ている。原籍校に所属しているという気持ちがあると思う。うまく原籍校につながるということが伺えた。原籍校に戻ったときに、原籍との連携をさらにやっていかななくてはならない。高等部については、どういうところで落ち込むのか、どうしたら立ち直れる

のかなど、保護者と生徒自身に確認をしたうえで進学先へつなげられるとよい。生徒が短期間で変わる学校。通常の学校は、だいたい1年のスパンで指導していく。教員のモチベーションがなかなかもてないのが現状だと思う。一つ哲学のようなものをもっているとよい。教員のモチベーションをいかに高めていくかが課題である。

委員F…初めて学校を回った。自分の子供が不登校だったときを思い出した。思いが込み上げてきて、複雑な思いになった。企業の方もこうやって見てくださっているんだということが分かった。今は、なんでもスマホ1つでできる。親として難しく、取り上げるのは難しい。SNSの怖さも知ってほしい。ありがとうございました。

5 コンプライアンス委員会

(1) 令和5年度不祥事根絶取組計画について

令和5年度不祥事根絶取組計画を基に説明後、各学部の取組紹介

小学部…教員の業務の把握や会議を精選し、職員同士のやり取りを大切にしている。また、子供の情報や職員の業務の進捗状況を互いに確認することを共有している。また、様々な情報に対し、特定の人しか知らないようなことがないようにしている。

中学部…事故を起こさないために毎月、交通事故に関する目標を各自で設定している。また、職員が孤立しないために、学年で話をする時間を設定したり、会議の精選をして雑談の時間を作ったりしている。少しでも話やすい環境を作れるように意識している。

高等部…基本的には、休みを積極的に取るように話をしている。自分自身が朝、部分休を取っている。自分に余裕がないと子供への指導ができない。自分の家庭を第一に。

事務部…全体的に静かで落ち着いている。全職員で互いの業務を確認している。声をあげられる雰囲気。気付いたことに対してみんなで早めに対応をしている。

(2) 意見交換

委員D…休暇の取得推進を進めている。コロナになってからコミュニケーション不足になっている。学校と状況は同じ。特に若者に多いと感じる。人との触れ合いがなくなっていると感じる。

委員A…どこも同じ。こういう取組がよかったということを教えてもらいたい。

学 校…みんなが笑顔でいられるように、今後も時間を生み出す、なくせるもの、改善できるものを精選していく。最終的には、コミュニケーションである。互いに認め合うことが大切。コロナ禍で少なくなりがちだった職員室でのコミュニケーションが増えてくるとよい。